

I 実践

1 研究主題

思いやりの心を育み、自他の立場や気持ちを考えて公正公平にふるまう態度を養う人権教育の在り方

(1) 主題設定の理由

本校の教育目標は「夢をもち、心豊かに、たくましく生きる日高っ子の育成」である。「心豊かに」は人権尊重の理念である「自分の大切さとともに他の人の大切さを認める」に深いかかわりを持つ。この教育目標の具現化のための努力事項の施策の1つに「ハートいっぱい夢プラン」の推進がある。日高の人、自然、文化を愛し、地域社会や郷土の自然文化と共に生きる心豊かで思いやりのある日高っ子の育成を目指している。

また、平成21年には、自閉症・情緒障害学級「しいのき」が新設された。ことばの教室、ゆりのき教室もあり、さらに、特別支援学級の児童と共に学んでいこうとする姿勢を身に付けることが大切であると考える。

そこで、集団活動を通して、思いやりの心を育み、自他の立場や気持ちを考えて公正公平にふるまう態度を養うことをねらい、本主題を設定した。

(2) 研究内容

ア 職員研修により、人権意識の高揚と力量のアップを図る。

イ 各教科・領域の学習を通して、思いやりの心を育て、公正公平な態度を養う。

ウ 異学年交流活動を推進し、思いやりの心を育てる。

エ 草花の栽培、清掃や奉仕活動を通して、生命の大切さを理解し、ボランティア精神を育てる。

オ よい行いを奨励し（日高っ子賞）、思いやりの心を育てる。

カ 「オアシスサ・ハイ運動」による学校・地域に響き渡る元気なあいさつを通して、基本的な生活態度や習慣の育成を図る。

キ 高齢者や地域の人々との交流行事に参加して、感謝や思いやりの心を育てる。

2 実践内容

(1) 職員研修

ア 人権教育の在り方についての再確認

イ 最新の人権教育ビデオ視聴「ねずみくんのきもち」他

(2) 4年生の総合的な学習の時間「高齢者にやさしく」

ア 運動会の予行練習や運動会の敬老種目への招待

イ ひたちの森ガーデンへの訪問

ウ 日高地区三世代スポレク祭の参加

(3) 3年生の人権教室

人権擁護委員の方をゲストティーチャーに迎え、「いじめをなくそう人権教室」が開かれた。ビデオ視聴のあと、児童は、それぞれの立場の気持ちについて考えた。

(4) 人権メッセージの取り組み

(5) 日高フェスティバル

2～6年生までが、各学級でアイデアを出し合い誰もが参加できるゲームを考える。そして、全校児童参加でいろいろな学級を回り、楽しみながら交流をする。保護者の方も参加している。

(6) 1, 2年生のおもちゃフェスティバル

2年生のおもちゃフェスティバルに、1年生が招待される。

(7) 1年生と4年生の交流学习

地域の南静公園に行く。

(8) 「人権の花」の栽培

草花の栽培を通して、生命の尊さを学ぶ。また、みんなで栽培することで協力する心が育つ。

(9) 日高っ子賞

思いやりのある行動やみんなが気持ちよくなる清掃活動などに贈られ、全校朝会等で表彰される。

(10) オアシスサ・ハイ運動

高学年の事務局の児童が中心となって、朝、昇降口に立ち、あいさつ運動を実施している。

11月のマナーアップ週間では、中学生・地域の方と共に校門付近に立ち、あいさつ運動を展開している。

(11) おんもさ祭への参加

地域自治会が中心となって行われるこの祭に、昨年から日高小児童のコーナーが設けられた。地域の方や教師の支援を受けながら、児童が自分たちで考えたゲームコーナーを運営した。



3 成果

- 各教科・領域での学習や行事では、計画の段階で相手の立場（高齢者や下級生）を考えながら、自分たちのできることは何か考えることができた。また、実際に触れ合う場面では、積極的に人とかわる姿が見られた。授業後の感想では、高齢者や下級生を思いやる言葉がたくさん書かれていた。
- 継続して取り組んでいる「オアシスサ・ハイ運動」や「日高っ子賞」により、自分も相手も気持ちのよい行動が広がっている。校内から地域へさらに広げていきたい。

II 課題

- 各学年のめあてに沿って、さらに充実した人権教育の推進を図っていきたい。
- 人権コーナーが児童の身近なコーナーになるよう掲示の仕方を工夫していきたい。

III 人権コーナー

「じぶんもたいせつ、みんなもたいせつ」をキーワードに、各種福祉活動の報告や児童が考えた人権メッセージを掲示している。

